第 2 回審査会における質問・意見と事業者の見解

意 見		事 業 者 の 見 解
岡 本 委 員	<p>大気環境</p> <p>1 特殊条件から日平均値の予測のところで少しわかりにくいところがありまして、既存の測定局での高濃度日を拾ってきますと、当該施設以外の寄与が大きくて、濃度が上がっている日も合わせて拾ってきてしまう可能性があると思います。千葉市の測定局と施設内ではかなり距離がありますので、そんなに影響は大きくないと思うんですけども、やはりこの施設の寄与分が大きくなる日をどのように抽出して、どのような条件時の気象条件のデータをどう設定するかというところですね、もう少し工夫をしていただけるとありがたいと感じます。</p>	<p>日平均値の予測において、既存の測定局での高濃度日につきましては、ご指摘のとおり、高濃度をもたらす気象条件や当該施設以外の寄与によって生じていることも想定されます。「実測高濃度日の予測」では、そのような高濃度日に対して発電所施設による寄与が加わることで生じる影響について検討していくこととしています。</p> <p>当該施設からの寄与が大きくなるような条件の日につきましては、「寄与高濃度日の予測」において、各測定局における年間全日の寄与を算出することにより、当該施設の影響について検討していくこととしています。</p>
羽 染 委 員	<p>廃棄物</p> <p>前回の質問でお聞きしましたが、回答は“準備書において記載いたします”でした。</p> <p>詳細な検討は、準備書段階で結構ですが、どのような廃棄物が発生し、どのようにリサイクル処分するのかの計画は建設工法等の選択にも関係してくるので、早い段階での検討が望ましいと思います。</p> <p>例えば、建設汚泥等のリサイクルは量も多く、リサイクルがむずかしい廃棄物にあたりますので、早めの検討を望みます。</p>	<p>事業計画の詳細検討にあたり、早い段階で廃棄物の発生量を把握し、有効利用等の検討を行います。</p>

意 見		事 業 者 の 見 解
矢野委員	<p>騒音</p> <p>11月28日第2回審査会における資料2の意見・騒音1に対する事業者見解については、審査会でも述べたとおり、機器から1m点での音圧レベルを85dBと想定した場合の計算値を提示し、3.5km点ではただ「小さい」ことのみを強調した見解である。</p> <p>そもそも「小さい」とは比較対象が示されないままで用いるのであれば、それは単なる感覚的な表現でしかなく騒音の影響を具体的に評価していることにはならない。数値を示して、その値と比較して大小を論じなくては全く意味をなさない。</p> <p>したがって、想定される音源に関しての具体的なパワーレベルまたは基準距離における音圧レベル等について検討し、理論的な根拠をもって対象とする地点の騒音を予測・算出すべきである。さらにその値が対象となる地点に適用される騒音の環境基準値と比較して、大小を判断して環境に対する負荷を判断しなくてはならない。</p> <p>付け加えるならば、事業者は住居まで3.5km以上離れていることで工場施設の稼働時騒音の予測を行わないとしているが、伝搬距離のみの条件では、明確に騒音の影響がないとはいえない。また第1回審査会の時に指摘しているが、対象となる住居の位置を明確に示していない。</p> <p>予測地点として距離に関してみると、事業対象区域から千葉ポートタワー側の工業地域の方が近距離にあるようにみえるので、この地点での騒音予測も行うべきと考える。</p> <p>工場施設稼働時の騒音値が敷地境界</p>	<p>発電所アセス省令*第4条では、環境影響を受ける範囲と認められる地域について、次のように規定しています。</p> <p>(環境影響を受ける範囲と認められる地域)</p> <p>第四条 特定対象事業に係る法第六条第一項の環境影響を受ける範囲であると認められる地域は、次に掲げる要件のいずれかに該当する地域とする。</p> <p>一、<u>対象事業実施区域及びその周囲一キロメートルの範囲内の区域であること。</u></p> <p>二、既に入手している情報によって、一以上の環境要素に係る環境影響を受けるおそれがあると判断されること。</p> <p>「発電所に係る環境影響評価の手引」(経済産業省 原子力安全・保安院、平成19年1月改訂)によれば、上記の影響を受けると範囲と認められる地域(関係地域)の考え方について、以下のように記載されています。(p.38)</p> <p>「対象事業実施区域及びその周囲1キロメートルの範囲内の区域であること」</p> <p>については、工事中及び供用後の騒音・振動の影響が、距離により減衰していくことから、工事場所から1キロメートル離れば影響はほとんど及ばないことを考慮し、1キロメートルと定めている。</p> <p>工事中については、移設作業を行うコンバインド発電所の対象事業実施区域の周囲1キロメートルの範囲に民家等が存在することから、建設機械の稼働による騒音について評価項目として選定いたしました。</p> <p>運転開始後については、施設が稼働する西発電所の対象事業実施区域の周囲1キロメートルの範囲は工業専用地域であり、民家等は存在しないことから、評価項目として選定い</p>

	上でどのような状態にあるのか、現在の状況を示していただきたい。	<p>たしませんでした。</p> <p><u>別紙1</u>を参照願います。</p> <p>なお、敷地境界における現在の騒音レベルについては、工事中の建設機械の稼働による騒音の予測のために、調査を実施し、その結果を準備書に記載する予定としています。</p> <p>*発電所アセス省令：「発電所の設置又は変更の工事の事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」（平成 10 年 6 月 12 日通商産業省令第 54 号）</p>
--	---------------------------------	--